

西普天間住宅地区返還跡地内埋蔵文化財発掘調査概報

平成28・29年度

西普天間住宅地区(旧キャンプ瑞慶覧)

返還跡地内における支障除去措置に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査の記録

2020年(令和2年)3月

沖縄県 宜野湾市教育委員会

西普天間住宅地区返還跡地内埋蔵文化財発掘調査概報

平成28・29年度

西普天間住宅地区(旧キャンプ瑞慶覧)

返還跡地内における支障除去措置に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査の記録

2020年(令和2年)3月

沖縄県 宜野湾市教育委員会

あいさつ

本報告は、平成 28 年度及び平成 29 年度、宜野湾市教育委員会が実施した西普天間住宅地区の緊急発掘調査の成果の概要をまとめたものです。

西普天間住宅地区は、戦後米軍基地として土地の強制収容が行われ、普天間ハウジングとして大規模な造成工事が行われ、多数の住宅が建築されました。当該地区は、普天間、安仁屋、新城、喜友名の 4 つの地区にまたがる地域にあり、基地接収以前は、周辺集落の生活基盤である田畑や住居、墓地などがありましたが、その多くは基地建設の造成工事によって消失しました。

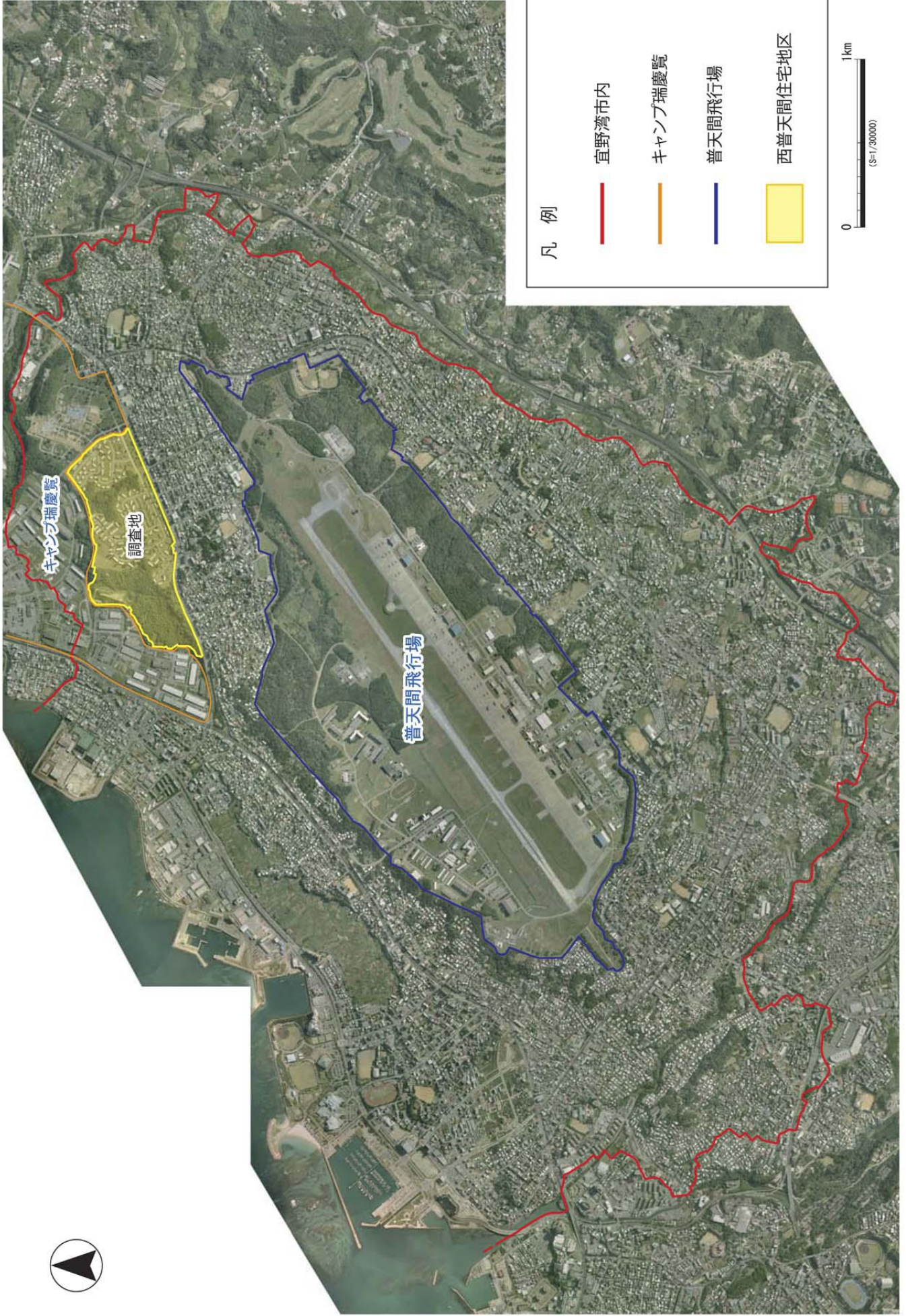
今回、本市教育委員会によって返還後の跡地利用計画に先立ち、地区内の遺跡の分布調査が行われ、造成された地下からは多数の埋蔵文化財が残存していることが確認されました。普天間や安仁屋では戦前の屋敷跡や古墓群のほか、大正期に整備された郡道、グスク時代から先史時代まで遡る遺構や遺物が多数見つかっています。新城・喜友名側では、先史時代から近代までの複合遺跡が確認されており、新城上殿遺跡ではグスク時代の建物跡が多数発見され、喜友名山川原第九遺跡では縄文時代の集落跡も見つかっています。

今回の発掘調査の成果が広く市民の歴史的教材ないしは文化財の保護・活用資料として活かされ、歴史学等の学術的資料としてご利用いただければ幸いに存じます。

末尾になりましたが、調査にご協力いただいた宜野湾市軍用地等地主会をはじめ、沖縄防衛局並びに関係部署の皆様に対して厚く御礼申し上げます。また、多大なご指導を賜りました文化庁文化財部、沖縄県教育庁文化財課、沖縄県立埋蔵文化財センター並びに市文化財保護審議会の諸先生方やその他関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます。

2020 年（令和 2 年）3 月

沖縄県 宜野湾市教育委員会
教育長 知念 春美



凡例

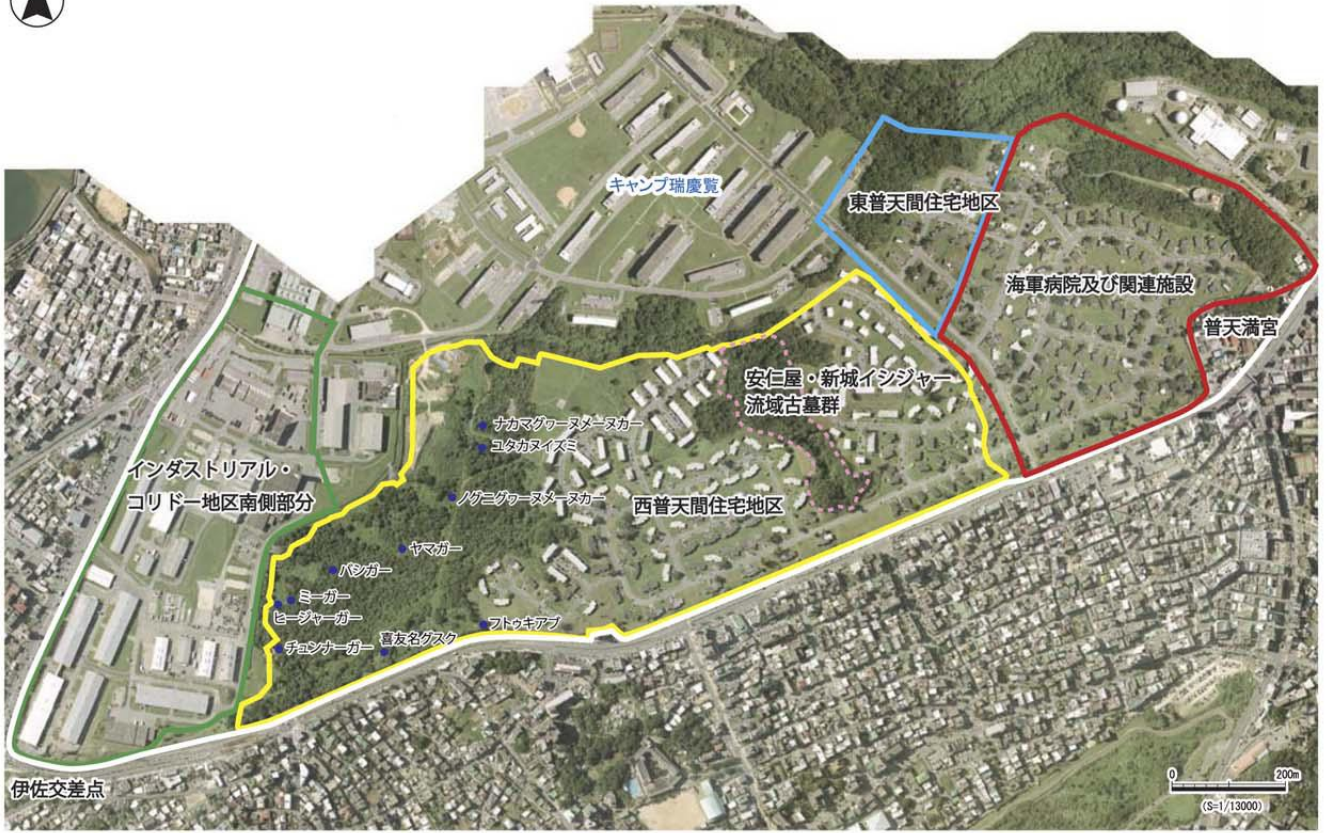
— 宜野湾市内

— キャンパ瑞慶覧

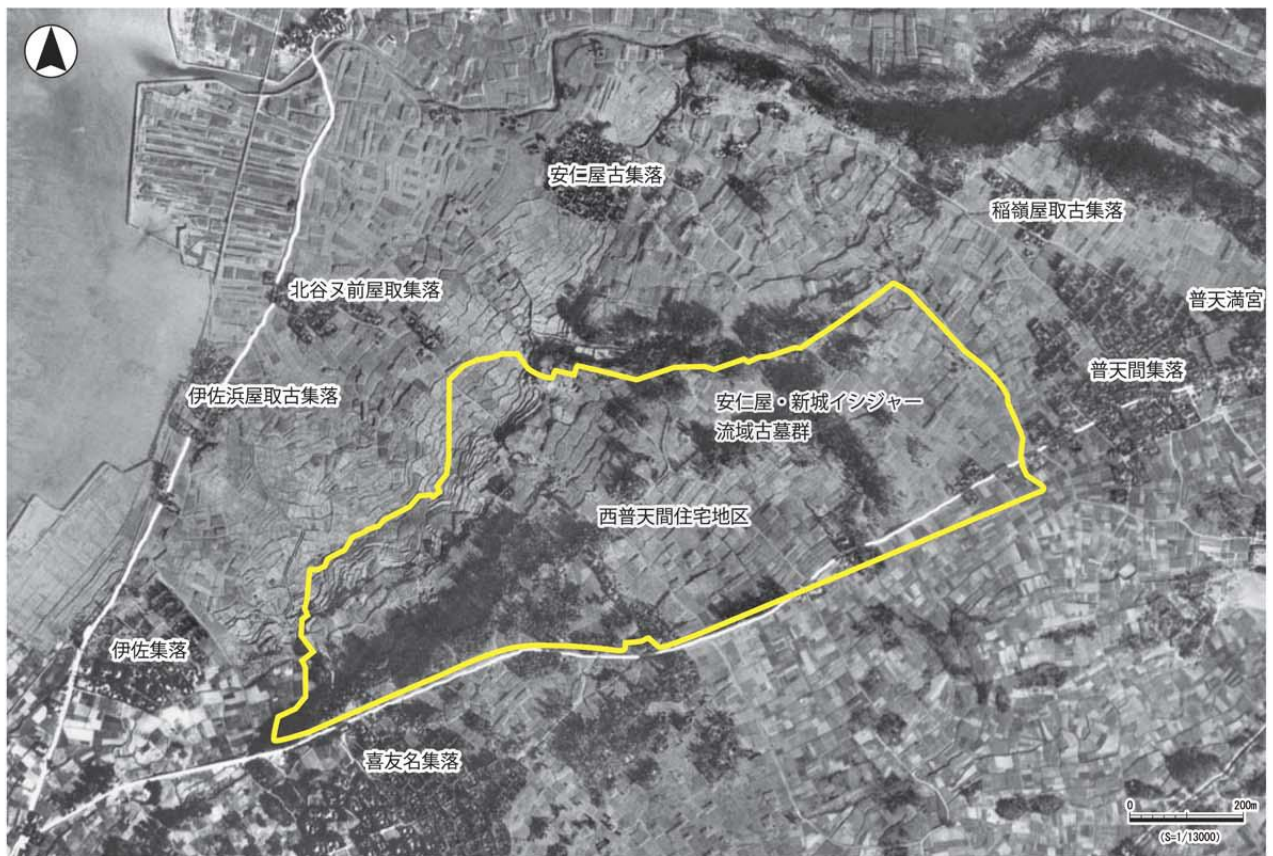
— 普天間飛行場

■ 西普天間住宅地区





巻頭図版 2 西普天間住宅地区周辺の地区名 ※西普天間住宅地区は、平成27年 3月31日に返還済み



巻頭図版 3 昭和 20 年 西普天間住宅地区周辺

例 言

1. 本概報は、宜野湾市西普天間住宅地区返還跡地（旧キャンプ瑞慶覧）で沖縄防衛局が実施する支障除去措置に先立ち、宜野湾市教育委員会と沖縄防衛局事業契約を終結して平成 28 年度及び平成 29 年度に実施した緊急発掘調査の成果をまとめたものです。
2. 発掘調査並びに本文中における遺跡の基準方位は、国土座標系（旧座標系）第XV座標系の座標北を用い、層位・遺構の高さは海拔高（那覇）を基準としております。
3. 本書に掲載している地図は、原則、宜野湾市都市計画課が発行した都市計画図(1:2500)を使用しており、他の情報図については、宜野湾市教育委員会が管理・運営している GIS データを主に使用しています。
4. 現地調査の実施にあたっては、宜野湾市軍用地等地主会のご理解の下、沖縄防衛局、沖縄県教育庁文化財課及び沖縄県立埋蔵文化財センターの協力を得て実施しました。
5. 現地調査で得られた実測図・写真・画像デジタルデータ・地形測量図などの各種調査記録類は全て宜野湾市教育委員会文化課に保管しています。
6. 文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権（発行）者の承諾なく、この概報を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。
7. 本書の執筆分担は下記のとおりです。編集は杉村千重美の協力を得て、仲村が行いました。

第Ⅰ章、第Ⅱ章 1～8、11	仲村 毅、伊野波 快、奥間 陽子、崎濱 比力理
第Ⅱ章 10（1）	長濱 健起、儀保 和士
第Ⅱ章 9、10（2）、（3）、（4）	金城 りお、普久原 千曜、佐喜眞 千弥

【用語解説】

遺 物：過去の人々が残した道具（土器・石器など）、装飾品、食べかすなどを指します。

遺 構：過去の人々がその土地に残した痕跡で柱跡、溝跡、耕作跡などを指します。

ピット：遺構の一つで、人工的に掘られた小規模な穴や窪みの跡などの総称です。

遺 跡：過去の人々の生活の痕跡（遺構や遺物）が残る土地のことで、集落跡、貝塚、古墓などを指します。

発掘調査：土に埋まっている過去の人々が残した生活の痕跡を調べ、昔の人々の生活を明らかにすることです。発掘調査には、遺跡の有無を確認するための試掘調査、遺跡の広がりや性格などを把握するための確認調査、工事が計画された場合に、その計画範囲にある遺跡の記録保存を行うための緊急発掘調査などがあります。調査後は、出土した遺物や遺構などを記録した図面や写真などの整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行します。

文化財：過去の人々が築き上げた歴史文化遺産です。発掘調査で確認される遺構や遺物も、過去の人々が生活していくためにつくり出した文化財で、これら土に埋もれた文化財を埋蔵文化財といいます。

目次

あいさつ

巻頭図版

例言

はじめに	1
第Ⅰ章 調査のはじまり	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査区の設定について	4
第Ⅱ章 発掘調査の成果概要	5
1. 新城上殿遺跡	5
2. 新城大道原第一遺跡	8
3. 喜友名山川原第八遺跡	11
4. 新城大道原第二遺跡	14
5. 新城大道原第三遺跡	17
6. 喜友名山川原第九遺跡	20
7. 喜友名山川原第十遺跡	23
8. 普天間石川原第二遺跡	26
(1) 調査区 8-①区、8-②区、8-③区	26
(2) 調査区 8-④ a 2 区	34
(3) 調査区 8-④ b 区	37
(4) 調査区 8-④ c 区	40
9. 普天間旧道跡	43
10. 安仁屋東原古墓群 (調査区 8-④ a1 区)	46
おわりに	49

報告書抄録

はじめに

西普天間住宅地区跡の返還地は、普天間、安仁屋、新城、喜友名の4つの地域にまたがる地区です。戦後、キャンプ瑞慶覧の建設に伴い土地の強制収容がなされた場所になります。平成8年に日米合同委員会で返還が合意され、平成27年3月31日にキャンプ瑞慶覧から返還されました。

返還された地区の面積は約51haで、地区の東側の大半は米軍人・軍属及びその家族の住宅地（ハウジングエリア）として利用されてきましたが、地区の西側には、国の重要文化財として指定されている「喜友名泉」のほか、多数の湧泉が所在し、これらを利用した水田跡のほか、新城集落発祥の地とされる新城上殿遺跡、中部地域では珍しい石灰岩堤を有する溪谷地形のイシジャーとその両崖及び周辺に造られた古墓群が所在するなど多数の遺跡が分布しています。

平成26年度から平成28年度にかけて実施した試掘・確認調査では、縄文時代からグスク時代、近世・近代の遺構まで多種多様な文化財があることが確認されています。

平成29年度末には沖縄防衛局が実施した支障除去措置が完了し、地権者への土地の引渡しが行われました。今後は本市の跡地利用計画に基づく区画整理事業や道路整備事業等が予定されています。

本報告は、沖縄防衛局による支障除去措置に伴い、平成28年度及び平成29年度に市教育委員会が実施した埋蔵文化財緊急発掘調査（記録保存調査）の概要となります。

第I章 調査のはじまり

1. 調査に至る経緯

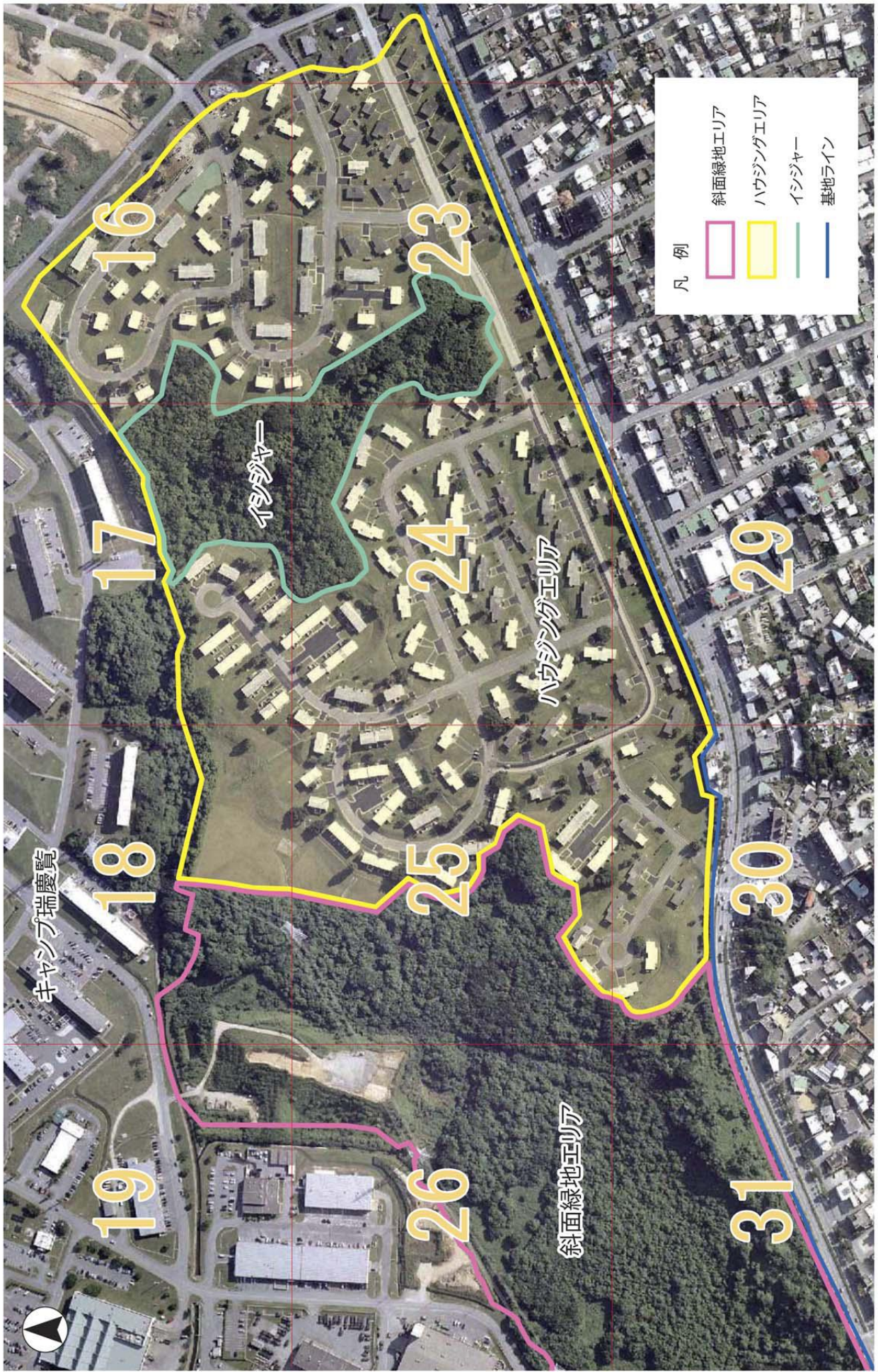
西普天間住宅地区返還跡地(以下、「地区跡地」とする。)は、平成8年12月に「沖縄に関する特別行動委員会」(SACO)の最終報告において返還が合意されたキャンプ瑞慶覧の一部です。

その後、平成25年4月に日米両政府が共同発表した「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」(以下、「統合計画」)において、キャンプ瑞慶覧地区(宜野湾市部分)は西普天間住宅地区として「速やかに返還可能となる区域」とされ、平成26年度またはその後に返還されることとなりました。

平成26年度には、返還区域として約51haが確定し、返還区域と米軍施設(キャンプ瑞慶覧)の境界には新たに境界柵が設置され、平成27年3月31日に返還されました。返還後は、「沖縄における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法」に基づいて地権者への土地の引渡しに向けて、沖縄防衛局による不発弾探査や埋設管撤去などの「支障除去措置」が行われることとなりました。

市教育委員会では、これまでの遺跡分布調査の成果から、当該地区には多数の遺跡が分布していることが確認されており、これらの遺跡の取り扱いについて、支障除去措置をおこなう沖縄防衛局及び返還後の跡地利用計画を進める市の開発部署と協議調整をおこないました。その結果、跡地利用計画において住宅や道路等の開発が予定されているエリアについては不発弾探査をおこなう必要があること、探査を実施した場合、遺跡が壊されることになるため、事前に記録保存のための緊急発掘調査をおこなうことが確認されました。ただし、喜友名や新城の斜面緑地については、湧泉への影響を考慮して、不発弾探査は地表面のみの水平探査を行い、掘削を伴う経層探査は保留とされました。

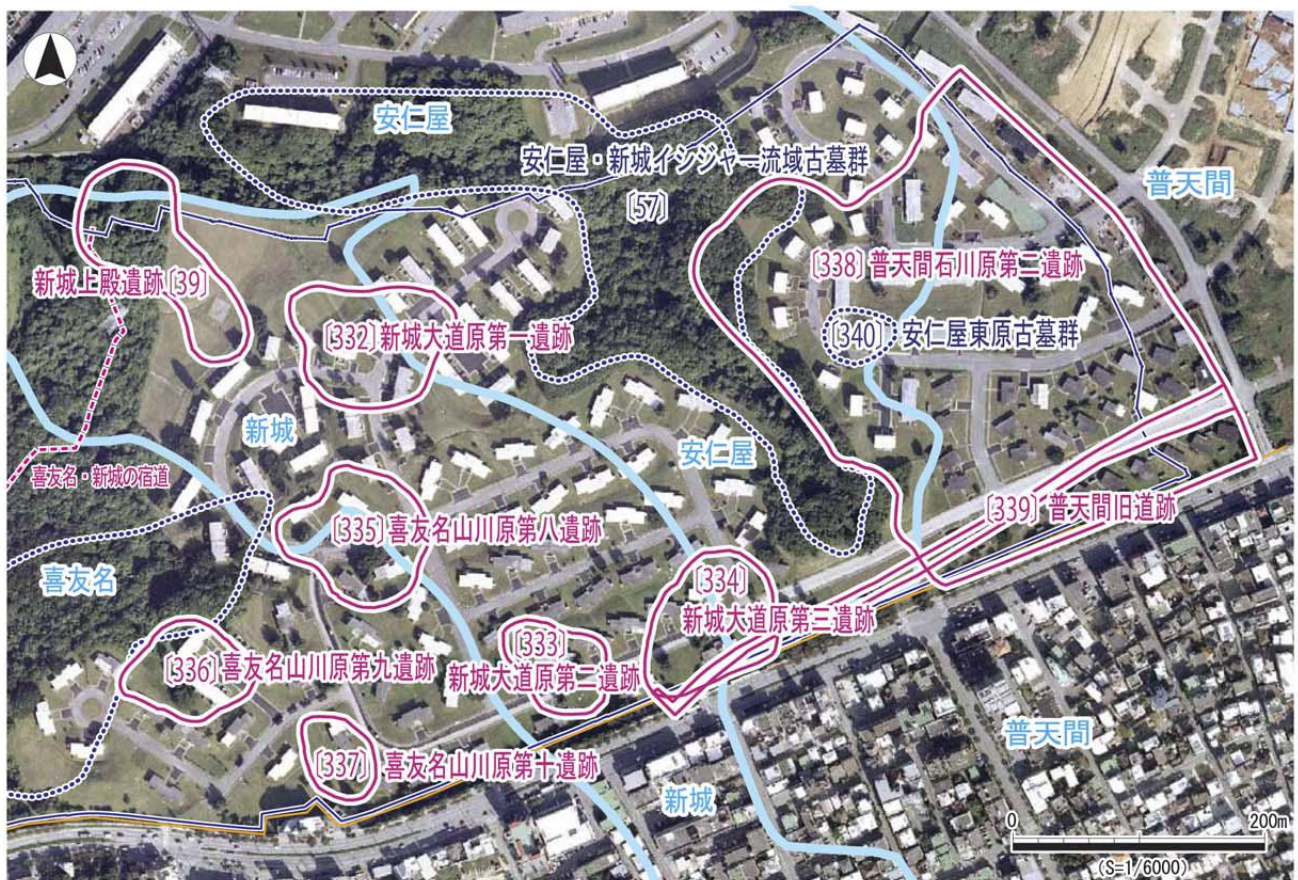
市教育委員会では、平成28年6月上旬から新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、同月中旬から喜友名山川原第八遺跡の発掘調査を開始しました。平成29年度も引き続き緊急発掘調査を行い、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡、喜友名山川原第九遺跡、喜友名山川原第十遺跡、普天間石川原第二遺跡、安仁屋東原古墓群、普天間旧道跡の7遺跡の調査を実施しました。



第 I - 1 図 地区のエリア

第 I - 1 表 所収遺跡の概要

遺跡番号	遺跡名	主な時代	遺跡の概要
39	新城上殿遺跡	グスク時代、近世～近代	グスク時代相当の集落跡。掘立柱建物と思われるピットや炉跡などが検出されている。遺物は主に中国産の輸入陶磁器が多く出土している。近世以降は耕作地として利用され、畑の区画や境界と思われる溝状遺構が確認された。
332	新城大道原第一遺跡	先史時代、グスク時代、近世～近代	出土遺物からグスク時代相当と思われるピットや土坑が確認されている。それ以外に先史土器を含むピットも確認されている。近世～近代では、耕作地として利用されており、関連する鉄跡などが確認された。
335	喜友名山川原第八遺跡	グスク時代、近世～近代	グスク時代相当の集落跡。4本柱の建物跡や炉跡のほか、掘立柱建物と思われる多数のピットが確認されている。遺物は中国産陶磁器のほか、グスク土器やカムイヤキなどのグスク時代初期相当する遺物も出土している。
333	新城大道原第二遺跡	グスク時代、近世～近代	近世～近代相当の遺構が主体。柵列跡と思われる直線に並んだピット群が検出されている。遺物は沖縄産陶器が多く出土している。
334	新城大道原第三遺跡	近世～近代	近世～近代相当の遺構が主体。ピットが多く検出されているが、基地使用時の埋設管により、攪乱が著しく遺構の残りは良くない。覆土に礫石を含む溝が確認されており、畑に関連する遺構と思われる。
336	喜友名山川原第九遺跡	先史時代 (縄文後期～晩期)	竪穴遺構が6棟検出。縄文後晩期頃の住居址と思われる。遺物は先史土器や石器が出土している。性格不明の多数のピットが検出されているが、時期は不明。
337	喜友名山川原第十遺跡	近代	古墓。米軍による土地造成により、墓の上部は消失。また、埋設管によって墓口等も壊されていた。墓庭に集石土坑を造ることや墓庭東側外壁に接して暗渠を設置するなど、特殊な遺構が見られる。
338	普天間石川原第二遺跡	先史時代、グスク時代、近世～近代	近世～近代に相当する屋敷跡やグスク時代相当のピット群のほか、先史時代の落とし穴と思われる大型土坑などが検出されている。遺跡は広範囲になるため、場所によって主体となる時期が異なる。
339	普天間旧道跡	近代	交通遺跡。大正期に整備された郡道であり、石灰岩の切石を縁石として配置し、路盤材にはイングレーを利用して舗装している。道の両脇に素掘りの側溝を設けている。
340	安仁屋東原古墓群	近代	3基の古墓が検出され、そのすべてが掘込墓となる。また、3基とも墓室のタナは「コ」字状を程する。

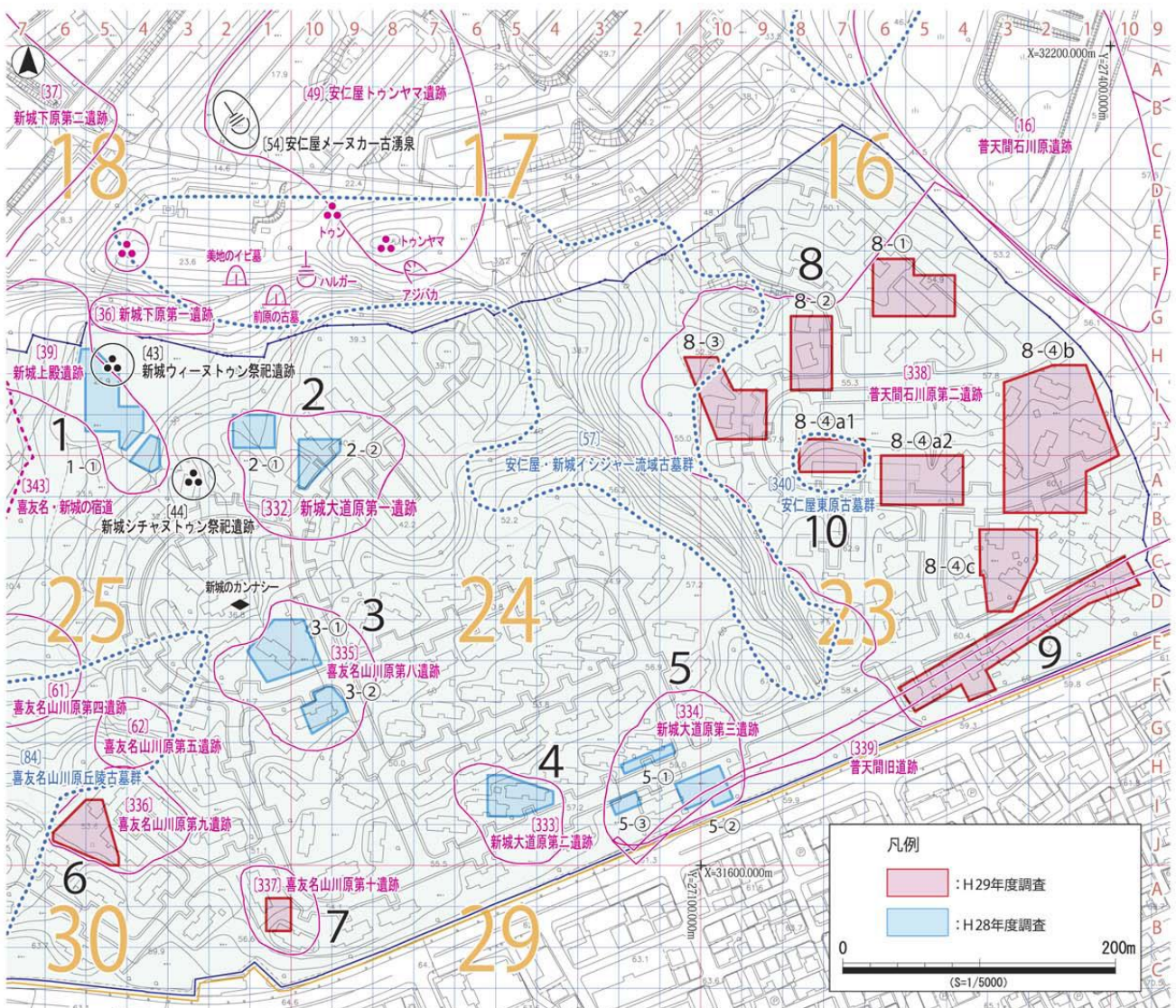


第 I - 2 図 西普天間住宅地区内の遺跡分布図

2. 調査区の設定について

緊急発掘調査の調査範囲については、本市教育委員会が過年度に実施した試掘・確認調査の成果に基づいて設定しました。新城上殿遺跡は、遺跡の南側部分が住宅地区として利用される予定であり、支障除去も南側部分が対象となっていたことから、調査区は開発予定の南側部分に設定しました。新城大道原第一遺跡は、試掘調査によって2箇所の地点に遺構が集中していることが判明していたので、2工区を設定しました。新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡は、近世～近代の遺構が確認されており、遺構が確認された試掘坑を中心に各工区を設定し、新城大道原第二遺跡は1工区、新城大道原第三遺跡は3工区を設定しました。喜友名山川原第八遺跡も試掘調査の成果を基に2工区を設定しました。喜友名山川原第九遺跡は、良好な堆積を残す試掘坑を中心に現況地形と旧地形を参考に設定しました。東側は岩盤が露出していたので遺構が消失していると判断し、遺跡の西側に調査区を設定しました。喜友名山川原第十遺跡は遺構の確認された試掘坑を中心に設定しました。

普天間石川原第二遺跡は、沖縄県立埋蔵文化財センターによる試掘・確認調査の結果、縄文時代からグスク時代、近世・近代の遺構が広範囲に万遍なく確認されていることから、調査区を6工区に分割して設定しました。安仁屋東原古墓群は確認された古墓を中心に設定しました。普天間旧道跡は、試掘・確認調査の成果と昭和20年の航空写真を基に、想定されるルートと重なる範囲を調査区として設定しました。



第 I - 3 図 調査区設定図

第Ⅱ章 発掘調査の成果概要

1. 新城上殿遺跡

遺跡概要：字新城小字下原、標高25m程の石灰岩丘陵縁辺に所在する。初確認は1981年でグスク時代の集落遺跡とされている。

調査期間：平成28年6月～平成28年12月

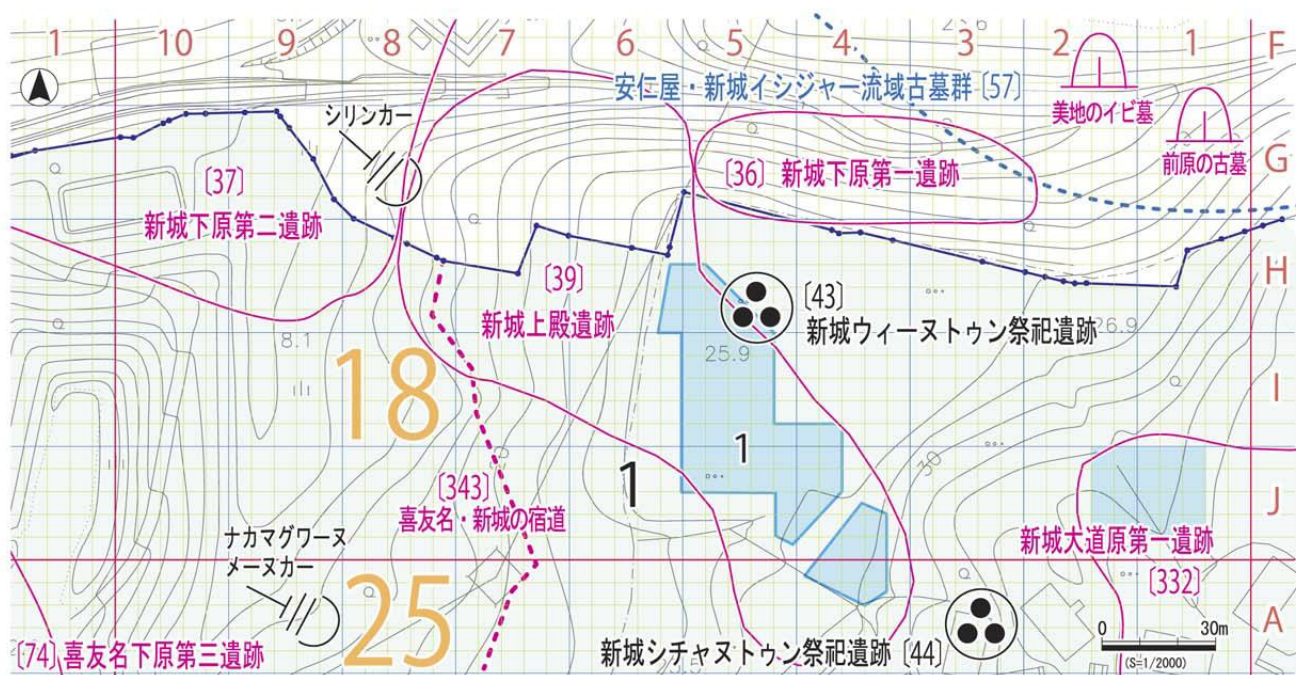
調査面積：約2215㎡

調査区：1区

遺構と遺物：ピット約587基、溝状遺構13条、土坑8基、不明遺構11基
グスク土器、中国産輸入陶器、沖縄産陶器、金属製品、石器など

【特筆事項】

グスク時代相当の柱跡と思われるピットが多数検出され、複数棟の掘立柱建物があったことが想定される。そのほか、幅約2m、深さ約1mで溝状遺構が検出された。これは遺構の規模やその他遺構との配置関係、立地などを考慮すると掘切の可能性もある。



第Ⅱ-1図 新城上殿遺跡 調査区位置図



図版Ⅱ-1 左：調査区全景 南側から 右：遺構検出状況 西から



建物跡検出状況 西から



ピット検出作業



建物跡 完掘状況 北から



ピット半断面 東から



炉跡検出状況



炉跡近景



遺構完掘作業 東から



溝状遺構 掘削作業 東から



溝状遺構 土層断面 西から



土坑内 (SK5) 青磁出土



ピット内 (SP165) 染付出土



記録作業状況 北から



調査区南側遺構 完掘状況 東から



調査区南側遺構 完掘状況 南から



ピット完掘状況 東から



調査区南側遺構 完掘状況 南東から

2. 新城大道原第一遺跡

遺跡概要：字新城小字大道原に所在する先史時代～近世相当の複合遺跡。平成27年度試掘調査にて新たに確認された。

調査期間：平成28年6月～平成28年12月

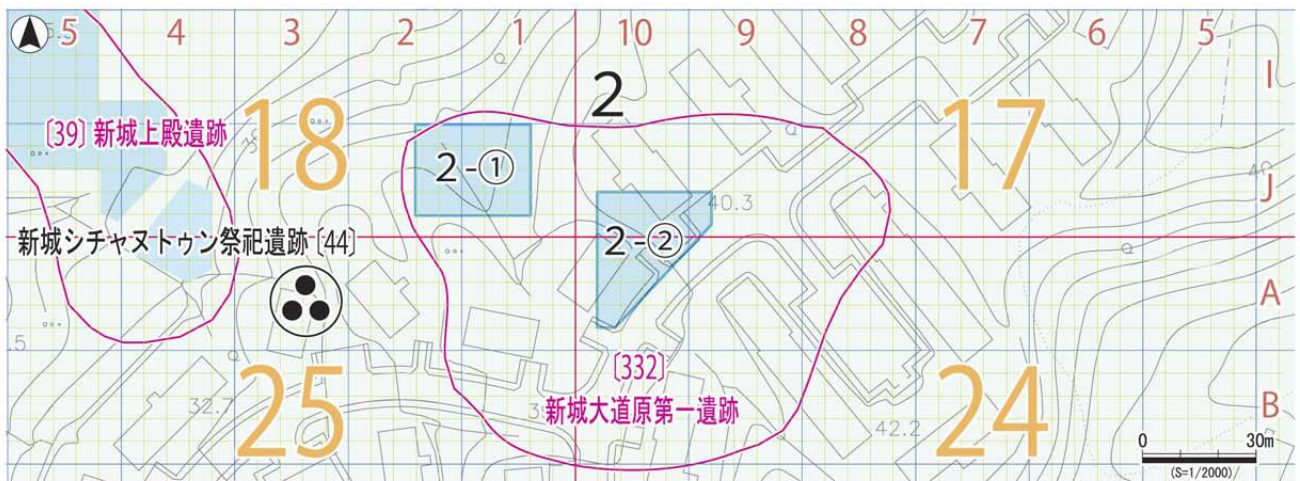
調査面積：約1380㎡(2-①区約720㎡、2-②区約660㎡)

調査区：2-①、2-②

遺構と遺物：ピット約300基、土坑3基、溝状遺構9条、不明遺構3基
土器、アカムヌー、沖縄産陶器、磁器、石器など

【特筆事項】

2-②区のピットは深度の浅いものと深いものが混じって検出されている。その他鋤跡も多く検出されている。



第Ⅱ-2図 新城大道原第一遺跡 調査区位置図



図版Ⅱ-2 2-①区 遺構検出状況全景 東から



2-①区 溝状遺構 掘削 南から



2-②区 溝状遺構 土層断面 南から



2-①区 溝状遺構 断面半截 北東から



2-①区 岩盤清掃作業



2-①区 作業状況



2-①区 不明遺構 断面 南から



2-①区 不明遺構内 土器出土状況



2-①区 ピット断面 西から



2-②区 完掘全景 西から



2-②区 遺構検出作業 北から



2-②区 溝状遺構 完掘状況 北から



2-②区 溝状遺構 遺物出土状況



2-②区 土坑内 遺物出土

3. 喜友名山川原第八遺跡

遺跡概要：字喜友名小字山川原に所在する、縄文中期～近代までの複合遺跡。平成27年度の試掘調査によって新たに確認された遺跡である。

調査期間：平成28年6月～平成28年12月

調査面積：約2281㎡（3-①区約1618㎡、3-②区約663㎡）

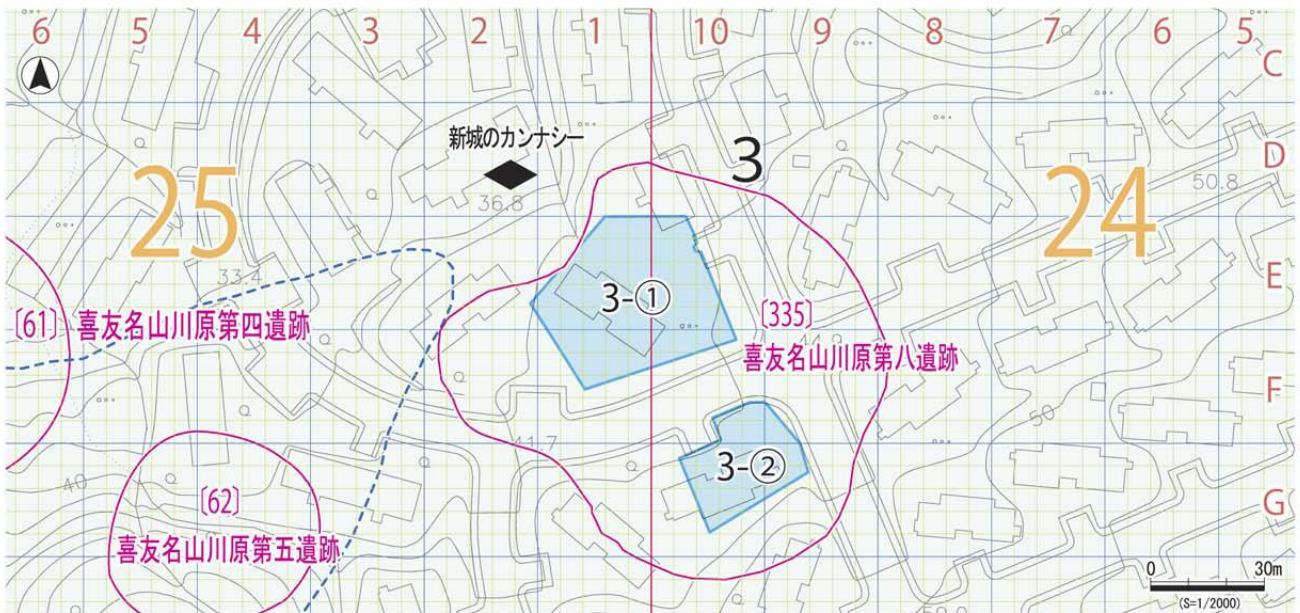
調査区：3-①区、3-②区

遺構と遺物：ピット約400基、土坑6基、溝状遺構11条、炉跡4基
先史土器、グスク土器、石器、沖縄産陶器、磁器など

【特筆事項】

3-①区から多数の柱穴が検出されており、複数棟の掘立柱建物があったことが想定される。

また一部の柱穴からは石器が検出している。



第Ⅱ-3図 喜友名山川原第八遺跡 調査区位置図



図版Ⅱ-3 3-①区 遺構検出状況 南から



3-①区 作業風景 北東から



3-①区 遺構掘削作業 南から



3-①区 溝状遺構 検出状況



3-①区 遺構検出状況 南から



3-①区 ピット半断面 北から



3-①区 遺構完掘状況 南から



3-①区 ピット半断面 南から



3-①区 ピット内 染付出土



3-②区 調査区全景 完掘 東から



3-②区 遺構検出状況 東から



3-②区 建物跡 完掘状況



3-②区 ピット半截状況 北から



3-②区 ピット内 遺物出土状況



3-②区 ピット内 遺物出土状況(白磁)



3-②区 遺物出土状況(石器と青磁)



3-②区 遺構掘削作業 西から

4. 新城大道原第二遺跡

遺跡概要：字新城小字大道原に所在する近世～近代の遺跡である。平成27年度の試掘調査で新たに確認された。

調査期間：平成29年2月～平成29年4月

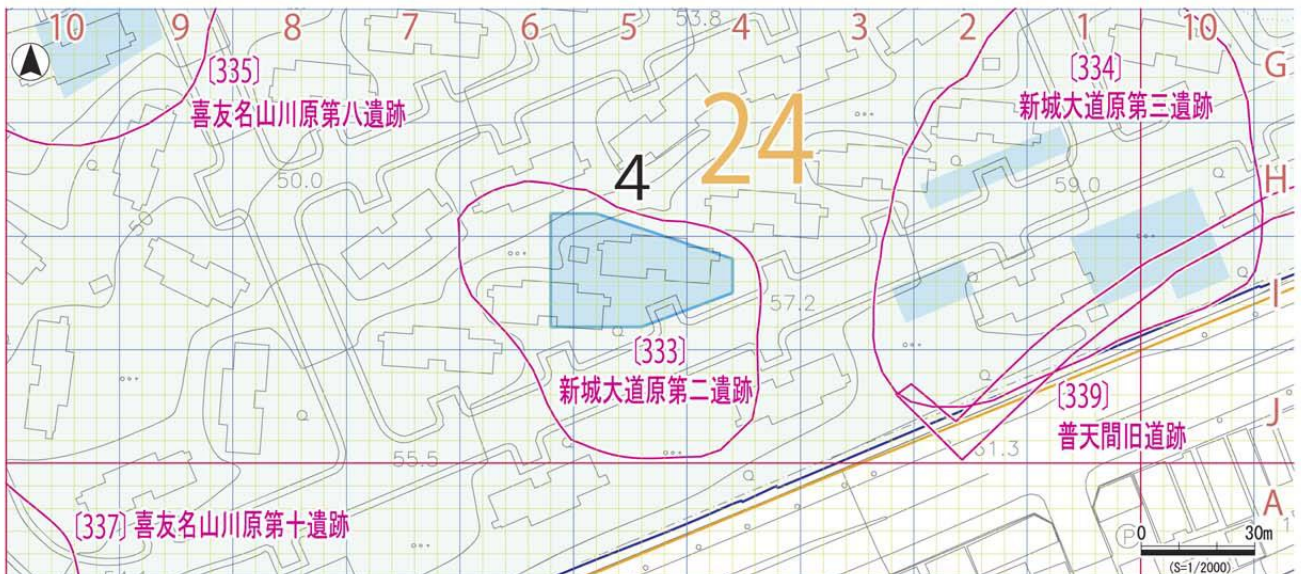
調査面積：約1116㎡

調査区：4区

遺構と遺物：ピット91基、溝状遺構5条、土坑4基、不明遺構7基
沖縄産無釉陶器、輸入陶磁器、アカムヌーなど

【特筆事項】

ピットが列状に連なるものが2組確認されている。ピット内から出土した遺物から近世以降の柵列の可能性が考えられる。



第Ⅱ - 4 図 新城大道原第二遺跡 調査区位置図



図版Ⅱ - 4 調査区全景 南から



遺構 平面・断面状況



ピット半断面 西から



不明遺構内 遺物出土状況



ピット半断面及び遺物出土状況



調査区全景 東から



作業状況 東から



遺構掘削作業 南東から



列状遺構 北西から



石込め遺構 検出状況 東から



溝状遺構 掘削作業 南から



遺構検出作業 東から



ピット半断面 北から



ピット半断面 北西から

5. 新城大道原第三遺跡

遺跡概要：平成27年度試掘調査で新たに確認された

調査期間：平成29年1月～平成29年3月

調査面積：約1270㎡（5-①区約281㎡、5-②区約789㎡、5-③区約200㎡）

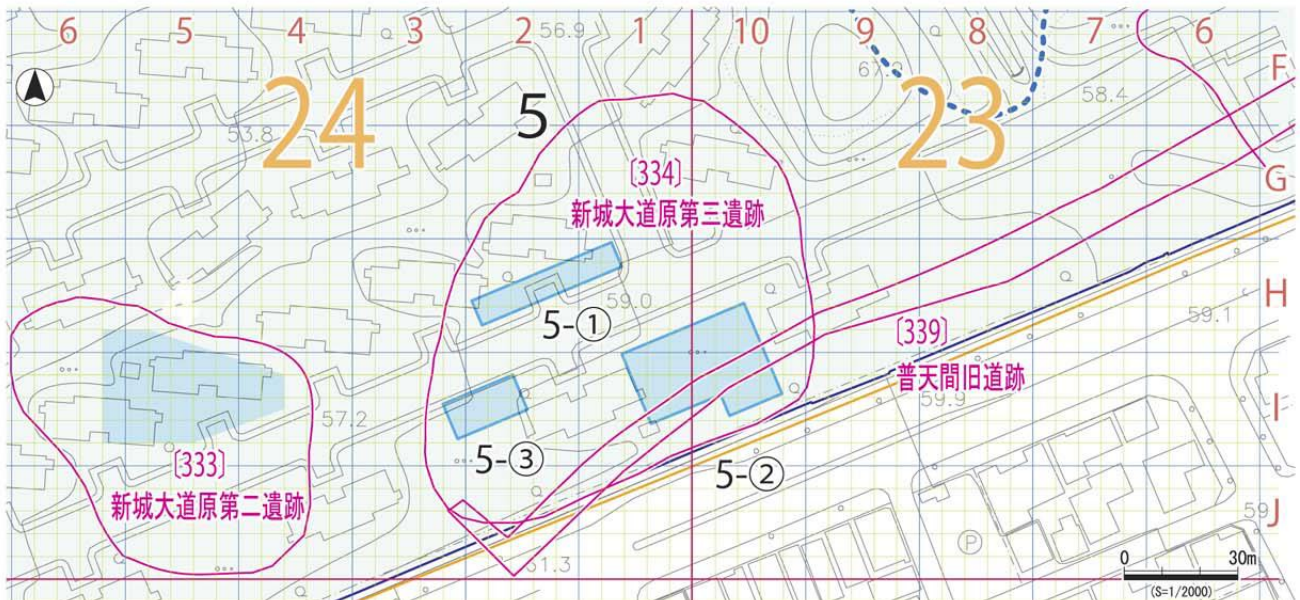
調査区：5-①、5-②、5-③

遺構と遺物：ピット約130基、土坑13基、溝状遺構6条

沖縄産陶器、アカムヌー、本土産陶器、磁器、石器など

【特筆事項】

5-①、5-②、5-③区全ての調査区で攪乱（配管跡など）が確認されており、遺跡の状態は良好ではない。



第Ⅱ - 5 図 新城大道原第三遺跡 調査区位置図



図版Ⅱ - 5 調査区全景 完掘 西から（左：5-①区 右：5-②区）



5-②区 掘削作業風景 北から



5-②区 ピット半断面 北東から



5-②区 溝状遺構内石敷き 検出状況 西から



5-②区 溝状遺構 土層断面 北東から



5-③区 重機掘削



5-③区 作業風景 東から



5-③区 土坑半断面 南から



5-③区 作業風景



5-③区 全景 完掘 西から



5-①区 壁面調整 東から



5-①区 溝状遺構 検出状況 南から



5-①区 溝状遺構 掘削作業 南から



5-①区 不明遺構内 古銭出土状況 北から



5-①区 不明遺構 礫検出状況 北から



5-②区 作業風景 北から



5-②区 溝状遺構 作業風景 東から

6. 喜友名山川原第九遺跡

遺跡概要：喜友名地区小字山川原に所在する、縄文時代後期～晩期と近世、近代の複合遺跡。平成27年度の試掘調査で新たに確認された。

調査期間：平成29年6月～平成29年11月

調査面積：約1386㎡

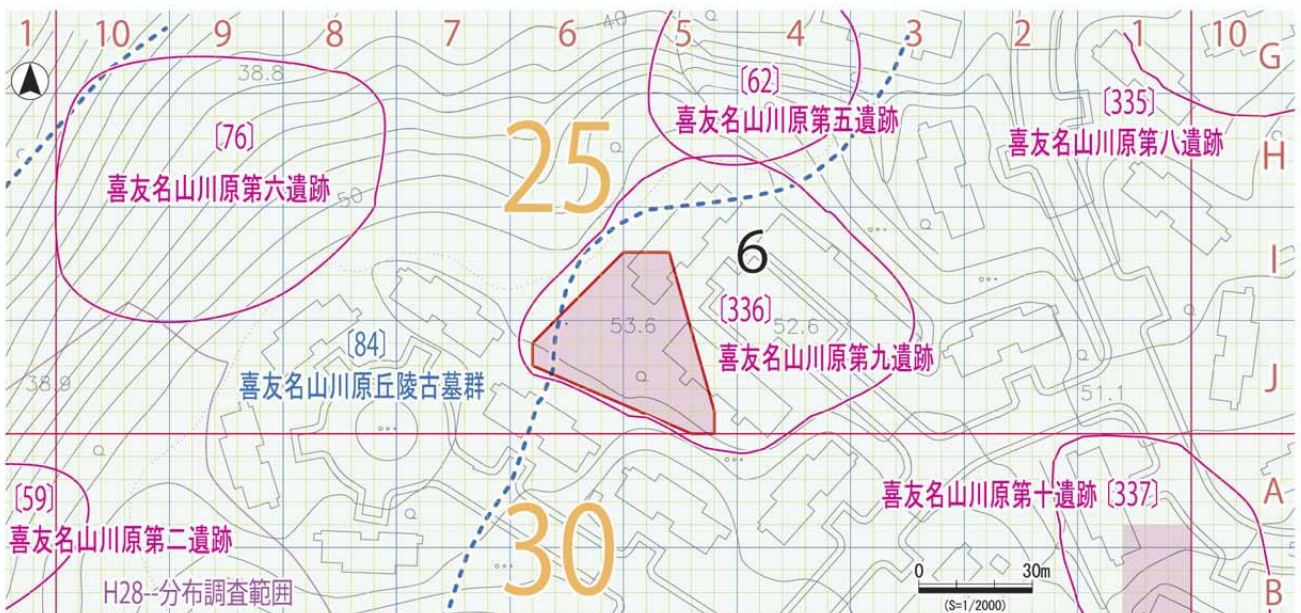
調査区：6区

遺構と遺物：ピット370基 土坑2基 竪穴遺構7基 溝状遺構2条

先史土器、グスク土器、石器、沖縄産陶器、磁器など

【特筆事項】

6区では7基の竪穴遺構が検出されたが、食糧残滓など生活の痕跡は確認されていないことから定住地ではなかった可能性が考えられる。その他400基近いピットが検出された。



第Ⅱ-6図 喜友名山川原第九遺跡 調査区位置図



図版Ⅱ-6 調査区全景 南西から



竪穴遺構 (S110) 検出状況 南から



竪穴遺構 (S110) 堆積確認 南から



竪穴遺構 (S106) 検出状況



竪穴遺構 (S333) 遺物検出状況



調査区全景 南西から



竪穴遺構 (S002) 断面状況 東から



竪穴遺構 (S432) 遺物検出状況 南東から



炉跡検出状況



ピット検出状況 南から



炉跡 (S224) 炭化物集中



ピット断面 東から



土器出土



石鏃出土

7. 喜友名山川原第十遺跡

遺跡概要：喜友名地区小字山川原に所在する。平成27年度の試掘調査にて新たに確認された。近代墓跡。

調査期間：平成29年5月～平成29年7月

調査面積：約432㎡

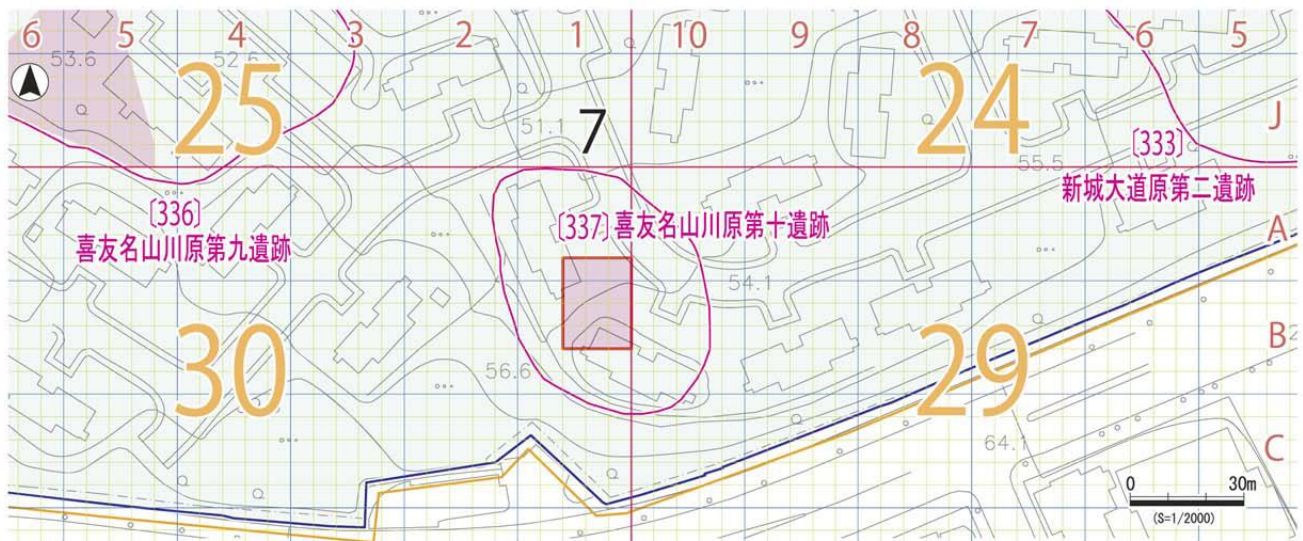
調査区：7区

遺構と遺物：墓跡、墓庭、暗渠、溝、集石土坑

蔵骨器片など

【特筆事項】

7区は近代の墓跡である。遺物の総数が少なく、目地に使用されたモルタルなどから、戦前もしくは戦後直後に作られ、基地建設に伴う土地接收前には改葬されたものと想定される。



第Ⅱ - 7 図 喜友名山川原第十遺跡 調査区位置図



図版Ⅱ - 7 調査区全景 西から



タナ 検出作業 北から



タナ 検出状況 北から



タナ 検出状況 西から



墓庭トレンチ設定 北から



調査区内清掃作業 北西から



墓庭 検出状況 北から



墓庭集石土坑検出



集石及びトレンチ断面 東から



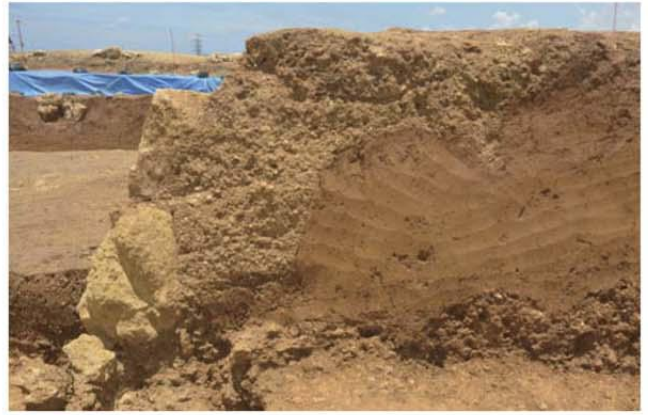
墓庭トレンチ壁面(南 - 西) 西から



表面 清掃作業 西から



壁面 検出作業 南西から



墓庭石積み断面



暗渠 検出状況 北西から



暗渠 南東から



溝状遺構 土層断面 北から



調査区遠景 南東から

8. 普天間石川原第二遺跡

(1) 調査区8-①区、8-②区、8-③区

調査概要：字普天間小字石川原に所在する。平成27年度の試掘調査にて初確認された。グスク時代～近代頃までの複合遺跡。

調査期間：平成29年4月～平成29年12月

調査面積：約5940㎡（8-①区約2160㎡、8-②区約1620㎡、8-③区約2160㎡）

遺構と遺物：ピット139基、溝状遺構10条、土坑1基、石列遺構1基

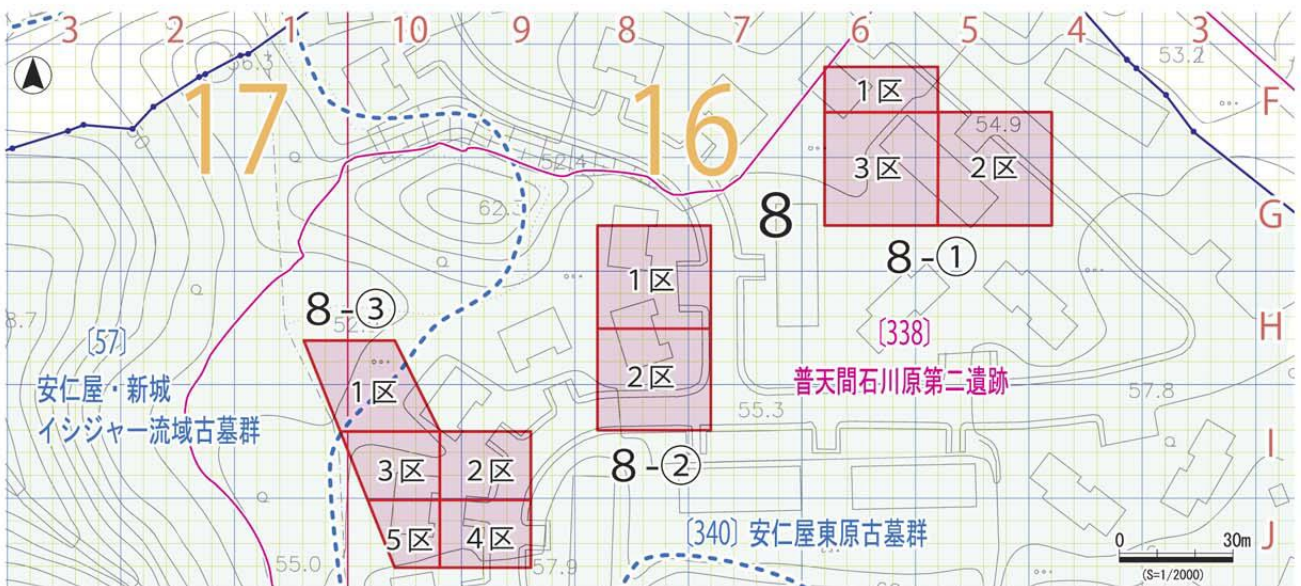
先史土器、石器、黒曜石（石材？）、グスク土器、カムイヤキ、沖縄産陶器、アカムヌー、キセル、簪、本土産磁器など

【特筆事項】

8-①区 検出されたピット群から複数のプランが考えられ、当該地で複数回建て替えられた掘立柱建物が存在したことが想定される。また、近世以降には耕作に伴う溝を掘りめぐらせたことも確認できた。

8-②区 返還前の埋設管などで一部では攪乱が著しい。調査区のほぼ中央に残存する遺物包含層は流れ込みの可能性があるが、比較的先史土器などが多く含まれており、中には島外から持ち込まれたと考えられる脚台状の土器が確認された。

8-③区 イシジャー（涸れ谷）の東側に位置する調査区であるため、地形的に西側に向かって傾斜し、その地形に沿って5条の溝状遺構が形成される。また流れ込みと思われる先史土器やカムイヤキなどが確認された。



第II-8図 普天間石川原第二遺跡 調査区位置図



図版II-8 調査区（8-①区）全景



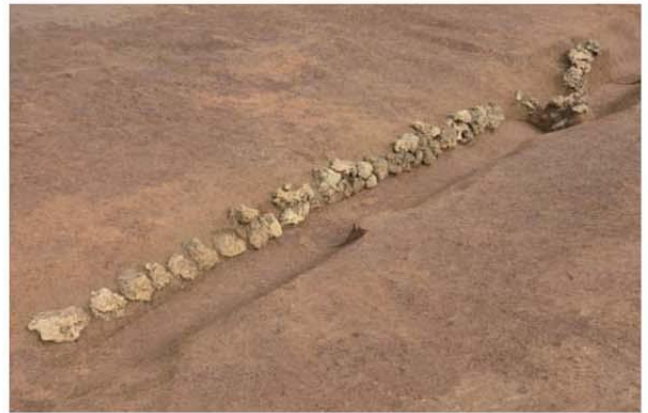
2区 ピット群 完掘状況



1・3区 溝状遺構 完掘状況



1区 石列検出状況



1・3区 溝状遺構内 土留石積検出状況



3区 溝状遺構 断面状況



3区 溝状遺構内 礫列・遺物出土状況



3区 ピット半截状況



3区 ピット内 グスク土器出土状況



1区 溝状遺構内 簀出土状況



2区 ピット切合い状況



1・3区 溝状遺構 掘削作業



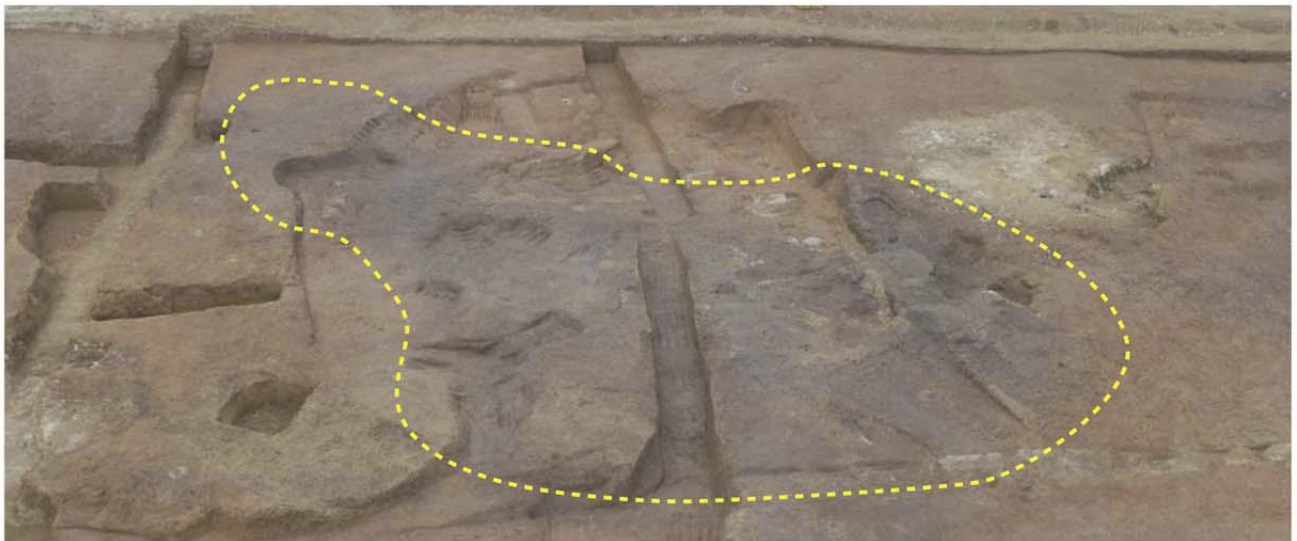
2区 プラン検討作業



調査区 (8-①区) 近景



図版Ⅱ - 9 調査区（8-②区）全景



1区 遺物包含層 検出状況



1区 溝状遺構 断面状況



1区 遺物包含層 ベルト南壁 堆積状況



1区 ピット内グスク土器出土状況



2区 遺物包含層 石斧出土状況



1区 遺物包含層 黒曜石出土状況



1区 遺物包含層 伊波式? 土器出土状況



1区 遺物包含層 土器出土状況



1区 遺物包含層 脚台状 土器出土状況



1区 遺物包含層 完掘作業



1区 溝状遺構 掘削作業



調査区 (8-②区) 近景



図版Ⅱ -10 調査区 (8-③区) 全景



1区 土坑 断面状況



1区 土坑内 遺物出土状況



3区 溝状遺構内 石列検出状況



1・3区 溝状遺構 遺物出土状況



1区 遺物包含層 掘削状況



1区 ピット 断面状況



3区 溝状遺構内 沖縄産施釉陶器出土状況



1・3区 溝状遺構内 沖縄産施釉陶器 出土状況



1区 遺物包含層内 カムイヤキ出土状況



1区 遺物包含層内 土器 出土状況



3区 遺構 検出作業



1区 遺物包含層 掘削作業



調査区 (8-③区) 近景

(2) 調査区8-④a2区

調査期間：平成29年6月～平成29年12月

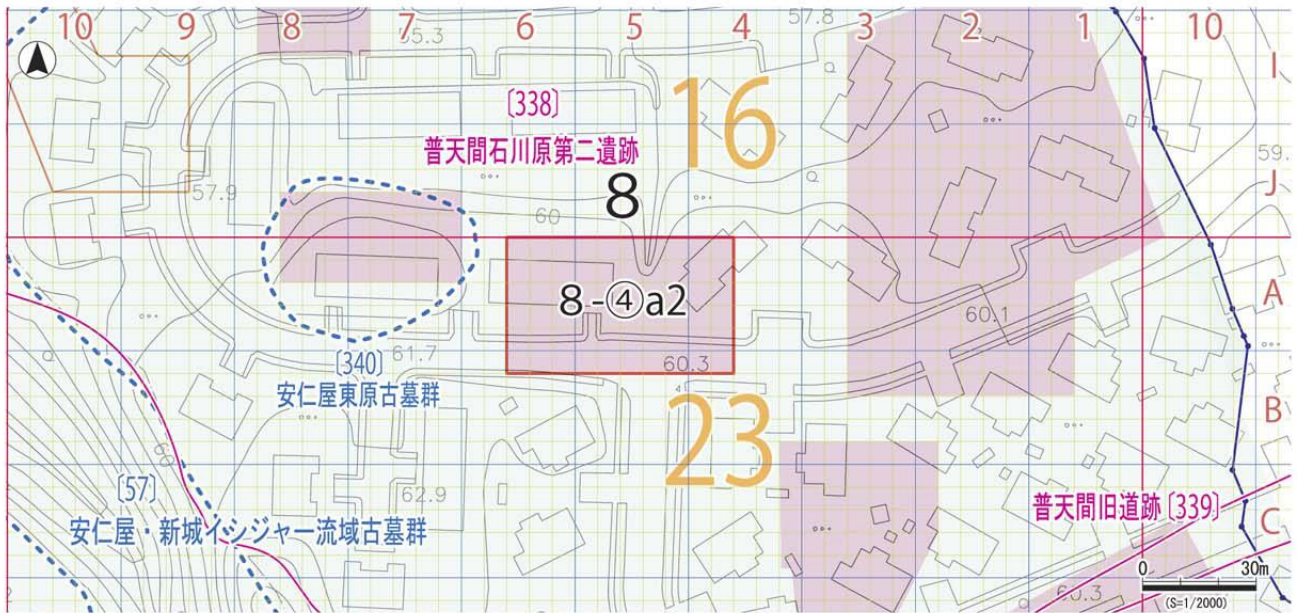
調査面積：約2160m²

【特筆事項】

当該地では、近世・近代の溝状遺構や、戦前の航空写真で確認できる里道跡と合致した道跡が見られた。また、グスク時代のものとみられるピットが検出されており、覆土にグスク土器を含んだピットや、6本柱のプランが組めるものが複数基確認されている。

縄文時代の遺構としては、竪穴建物跡と思われる遺構が検出されている。竪穴建物跡とみられる遺構に伴い、石器とみられる扁平な石が確認されている。

全体的に地山まで削平されており包含層はほぼ確認されず、地山を掘り込んだ遺構のみが残存している状況であった。



第Ⅱ-9図 普天間石川原第二遺跡 調査区位置図



図版Ⅱ-11 全景完掘状況



遺構検出状況 東から



遺構検出状況 東から



遺構検出状況 東から



拡張区遺構検出状況



Sa001 石敷? 検出作業



Sa001 石敷? 検出作業 南から



Sa001 石灰岩礫検出状況 西から



Sa001 遺物集中部1 北から



Sa832 層遺物出土状況 北から



Sa38、Sa163 壁面メモ



拡張部遺構掘削作業 北から



拡張部遺構掘削作業 西から



拡張部遺構掘削作業 北から



西側完掘状況 北東から



掘立柱建物1周辺 完掘状況



掘立柱建物2周辺 完掘状況

(3) 調査区8-④b区

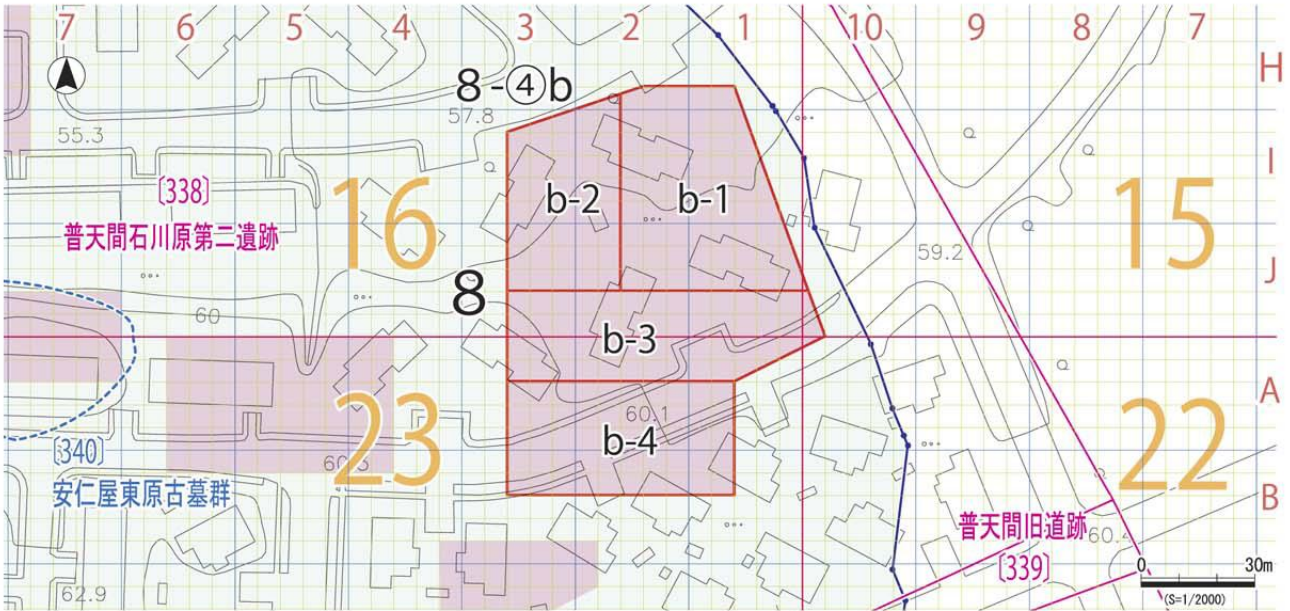
調査期間：平成29年6月～平成29年12月

調査面積：約7200㎡ (b-1約2144㎡、b-2約1410㎡、b-3約1846㎡、b-4区約1800㎡)

【特筆事項】

近世・近代の溝状遺構など畑に伴うと思われる遺構や、グスク時代のもと思われるピットや性格不明の炉跡が検出されている。さらに調査区内にはいくつかの迫地が存在し、迫地内からもピットが検出されている。これらは植栽痕の可能性はある。なお、迫地からは主に縄文並行期の土器片なども出土しているが、概ね流れ込みと思われる。

詳細については今後検討していく必要がある。



第II-10図 普天間石川原第二遺跡 調査区位置図



図版II-12 遺構完掘状況



b-1区 sb017 礫部分検出作業



b-1区 sb017 ベルト3西壁 東から



b-1区 sb055 獣骨検出作業 南西から



b-1区 sb055 獣骨出土状況 西から



b-1区 ピット検出状況 北西から



b-1区 南側建物プラン



b-2区 遺構検出 南から



b-3区 鋤痕検出状況 北西から



b-3区 NR05 東西トレンチ北壁清掃作業 南東から



b-3区 NR05 東西トレンチ北壁サンプリング作業 南東から



b-3区 Sb439・440 一部完掘



b-4区 Sb04・08 検出



b-4区 炉跡? 検出作業 北東から



b-4区 Sb05～07・09 完掘



b-4区 Sb148 断面



b-4区 Sb148 北から

(4) 調査区 8-④c 区

調査期間：平成 29 年 6 月～平成 29 年 12 月

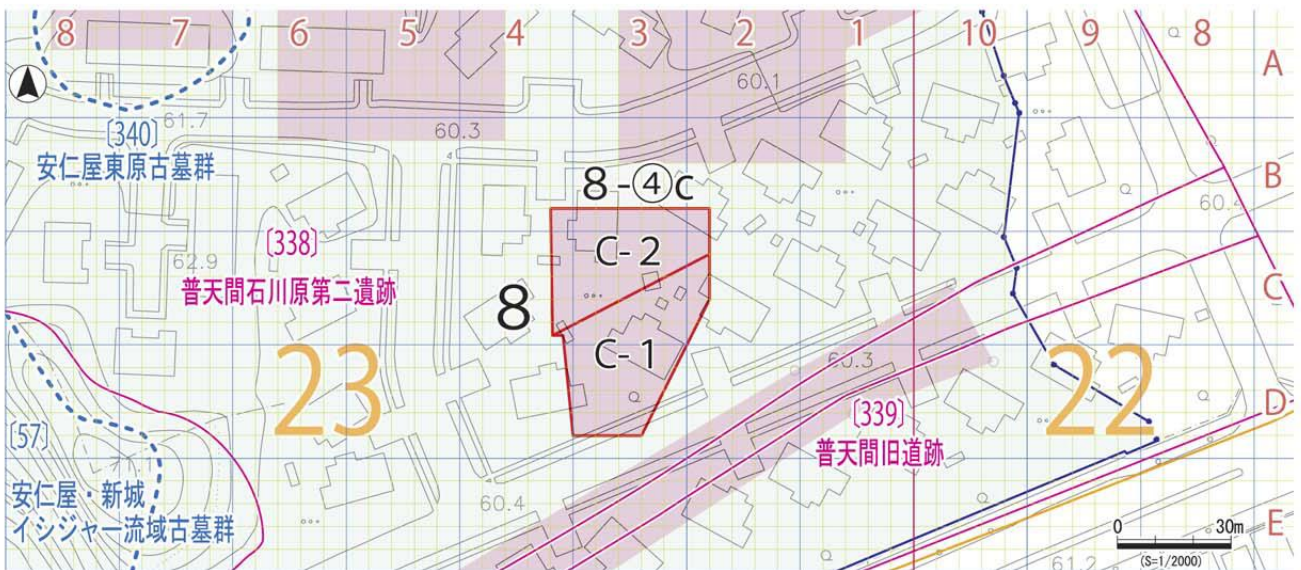
調査面積：約 2062㎡ (C-1 約 1110㎡、C-2 約 952㎡)

【特筆事項】

近世・近代の溝状遺構やクワ跡など畑に伴うと思われる遺構や、屋敷に伴う井戸やシーリなどの遺構を検出した。地籍図と概ね合致する溝状遺構については、区画の役割を持っていたと想定される。屋敷跡では陶磁器が重なった状態でまとも出土するなど、意図的に埋めたと思われる状況もあった。

またグスク時代のもと思われるピットが検出されており、中にはプランが組めるものもある。さらに調査区内にはいくつかの迫地が存在し、迫地内からもピットが検出されている。これらは植栽痕の可能性はある。なお、迫地からは主に縄文並行期の土器片や石鏃も出土しているが、概ね流れ込みと思われる。

縄文並行期の遺構としては、ほぼ垂直に落ちる大型土坑が検出されており、中には 3 m 近く掘り込まれたものもある。これらは落とし穴の可能性もあるが、詳細については今後検討していく必要がある。



第 II - 11 図 普天間石川原第二遺跡 調査区位置図



図版 II - 13 遺構完掘状況



普天間石川原第二遺跡全景 南東から



C-1区 Sc018 遺物検出 北から



C-1区 Sc020 遺構検出 東から



C-1区 Sc020 遺構検出状況 南から



C-1区 Sc043 作業状況 西から



C-1区 Sc043 遺構検出状況 北西から



C-2区 遺構検出状況 北西から



C-2区 木(戸?) 検出状況 南東から



C-3区 Sc083 土層剥ぎ取り 南西から



C-3区 SE01 御願 東から



C-3区 SE01 周辺 石検出作業状況 西から



C-3区 SE01 半断面 南東から



C-3区 Sc019 遺物出土状況 北西から



C-3区 Sc019 遺物出土状況 北から



C-3区 Sc014 検出状況 西から



C-3区 Sc014 遺物出土状況 北東から

9. 普天間旧道跡

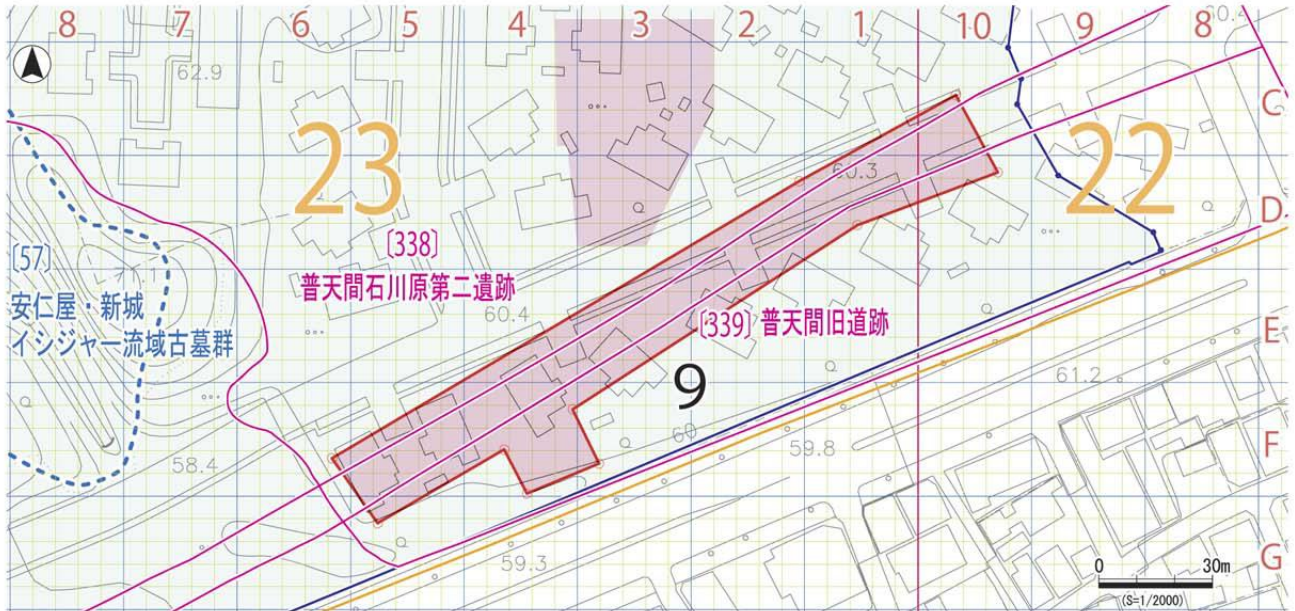
調査期間：平成29年5月～平成29年12月

調査面積：約4135㎡

遺構と遺物：先史土器、グスク土器、沖縄産陶磁器、本土産陶磁器、中国産陶磁器、石器、銭貨など

【特筆事項】

大正時代に中頭郡によって整備された郡道。石灰岩の切石を両端に配置して縁石とし、道路面はイシゲを敷き固めて舗装している。道路上よりサトウキビ運搬のためのトロッコ軌道の痕跡が確認された。



第Ⅱ-12図 普天間旧道跡 調査区位置図



図版Ⅱ-14 調査区全景 西から



土坑掘下げ作業



旧道側溝埋土状況 南から



植栽痕検出状況 北から



石列精査作業



遺構下層確認作業



石臼出土状況



犬釘出土状況 北から



掘削作業



S032(貯蔵穴)内遺物出土 西から



枕木検出状況 西から



旧道北側縁石 堆積状況 東から



S002(石組・柱痕) 検出状況 東から



NS トレンチ 1 配管埋設状況 北から



犬釘検出状況



S032(貯蔵穴)完掘 南西から



蹄鉄出土状況 北から

10. 安仁屋東原古墓群（調査区8-④a1区）

調査期間：平成29年5月～平成29年10月

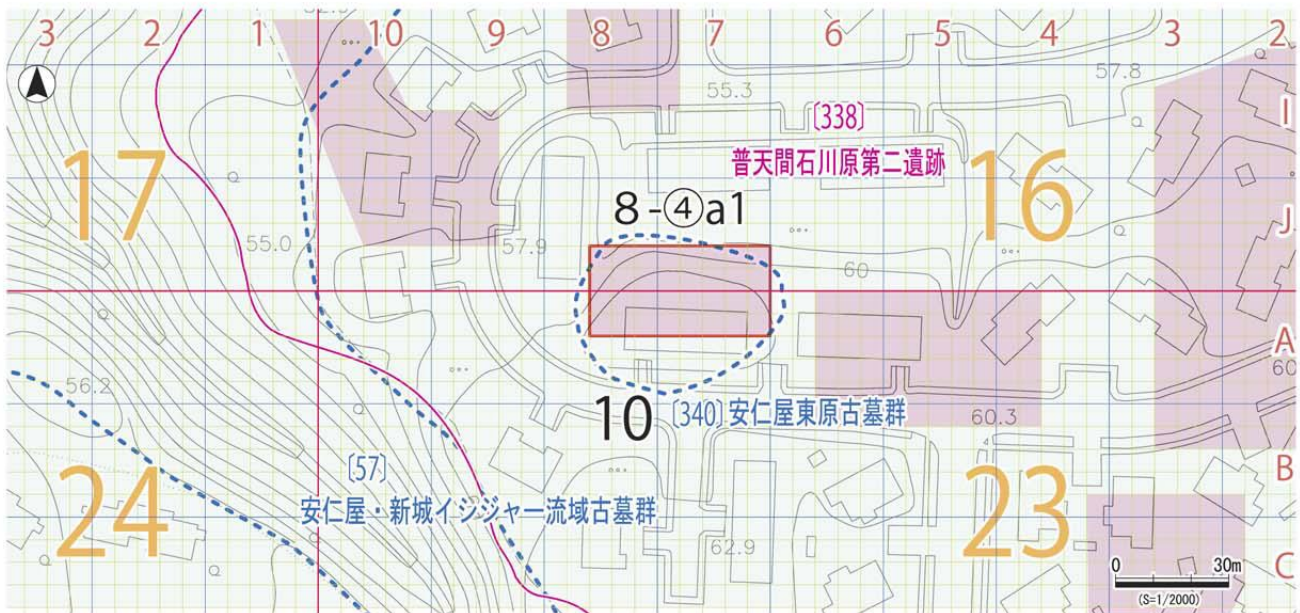
調査面積：約1152㎡

遺構と遺物：古墓、近世・近代陶磁器、厨子甕など

【特筆事項】

調査地は米軍のハウジングが建っていた場所で、平成27年の沖縄県立埋蔵文化財センターによる試掘調査で遺跡が確認された。

今回の発掘調査では古墓が3基確認されている。3基とも丘陵の周縁部に横穴を掘り、墓口部分と墓庭部分に切石を使用し造られている。2号墓、3号墓ではモルタルの使用が確認でき、墓室内や墓口の石積みを修復したとみられる。改葬が行われており、墓室内には厨子や人骨が残っておらず、墓庭で人骨の一部と廃棄されたとみられる厨子が出土している。遺構の状況と出土遺物から戦前から戦後すぐまでは使用していたと見られるが、ハウジングが建設される頃には改葬が行われていた可能性が推測される。



第Ⅱ-13図 安仁屋東原古墓群 調査区位置図



図版Ⅱ-15 調査区全景 北から



1号墓 墓室検出状況 南から



1号墓 墓口内面検出状況 南東から



1号墓 墓室完掘状況 東から



1号墓 完掘状況 北東から



2号墓 墓室手前掘削作業 北東から



2号墓 墓庭 北東から



2号墓 カビアンジ完掘状況 北から



2号墓 墓正面完掘 北から



2号墓 シルヒラシー完掘 東から



3号墓 厨子甕出土状況



3号墓 人骨出土状況 北から



3号墓 近景 北から



3号墓 完掘状況 北西から



3号墓 完掘状況 北から



遺構検出状況 西から



調査区俯瞰 北西から

おわりに

西普天間住宅地区返還跡地は、戦後の基地建設に伴う土地の強制収容により、平成27年の返還まで立ち入りが制限され、尚且つ地区内の平坦地のほとんどが米軍属の住宅地として大規模な造成工事が行われ、かつての面影は見られなくなりました。

市教育委員会では、返還が決まった平成25年度から地区内にある文化財の状況を確認するための分布調査を行い、喜友名や新城、安仁屋区に位置する緑地帯については、戦前来の旧地形が非常に良好に残されていることがわかりました。また、米軍の住宅地として造成されたエリアについて、300箇所以上の試掘調査を行った結果、新規に9遺跡が発見されました。

地区跡地の不発弾探査に先立ち、平成28年度から平成29年度において実施した埋蔵文化財緊急発掘調査は10遺跡に及び、その調査総面積は約32,000㎡となっています。これらの文化財は一部街区公園や道路下において現地保存されるものもありますが、大部分は記録保存ということで、すでに不発弾探査が行われ、現地には残されていません。

本概報で報告している内容はその一端に過ぎませんが、緊急発掘調査の成果については、遺跡から確認された遺構・遺物などの様々な情報を基に資料整理作業を進め、発掘調査報告書として刊行する予定です。

今後は市の跡地利用計画に基づいて区画整理や道路整備などの開発工事が予定されていますが、喜友名区や新城等の斜面緑地には多数の湧泉や古集落、古墓等の文化財が残り、緑地や都市公園として整備される予定となっています。緊急発掘調査で確認された文化財とともに、現地に残されている文化財は地域にとって大切な財産であり、これを確実に守り、次の世代に伝えていくことが重要と考えます。



◀現地説明会の様子



旧道跡の形などを確認する参加者ら＝8日、宜野湾市・西普天間住宅地区

普天間旧道跡熱心に見学

【宜野湾】市教育委員会は8日、米軍キャンプ瑞慶覧返還跡地（西普天間住宅地区）で発掘された戦前の郡道「普天間旧道跡」の現地説明会を開き、市内外から20人が参加した。参加者は担当者の解説を聞きながら写真を撮ったり、熱心に郡道の形状を確認したりして当時の人々の生活

キャンプ瑞慶覧返還地 宜野湾市教委 説明会

に思いをはせていた。旧道跡は2017年度の文化財調査で見つかった。1915年頃に整備されたとみられており、普天間宮から伊佐方面へ東西をつなぐ主要な道路として戦前まで利用されていた。サトウキビ運搬のトラックや客車馬車の往来があったという。現在は幅約4・5m、

距離約180mが比較的良質な状態で残っている。周辺から出土した陶器などの遺物46点も展示された。

▲現地説明会

沖縄タイムス（平成30年11月23日掲載）

戦前の郡道跡に触れる 西普天間 文化財説明会を開催

宣野湾市の担当者の説明に耳を傾ける参加者たち 11月8日、宣野湾市



【宣野湾】米軍キャンプ瑞慶覧・西普天間住宅地区の返還跡地で2017年度に実施された文化財調査について、宣野湾市教育委員会文化課は8日、調査の結果を報告する現地説明会を開いた。戦後に米軍が盛り土をしたため、良好な状態で保存されていた戦前の郡道跡とみられる「普天間旧道跡」について担当者が説明し、参加した20人が興味津々で耳を傾けた。

戦前の郡道跡とみられる「普天間旧道跡」 11月8日、宣野湾市



旧道は普天満宮から伊佐に続いていた道路で、戦前はサトウキビを運搬するためのトロッキのレールが走り、客馬車の往来があったという。幅は約4・5メートルで、石灰岩の切石を縁石として両脇に配置し、道にはイシグー(石粉)が敷かれている。当時は約2・3キロの距離があり、今回はそのうち

の約180メートル分が確認された。

宣野湾市史によると、1915年に道路の改修工事の入札公告が出されているため、調査で確認された現状の形態になったのは同年以降という。説明会では、跡地から見つかったトロッキレールを敷設するための枕木跡や犬くぎ、縄文土器のかげら、明治期の銅銭、馬ていなども展示された。

案内した文化課文化財保護係の仲村毅さん(36)は「これだけの石を人力で削り、並べたのはかなりの労力だったと思う。この辺一帯は戦前、キビの生産が盛んで、軽便鉄道で大山から嘉手納の製糖工場に運ばれていた」と説明した。

読谷村教委文化振興課で文化財調査をしている久高友孝さん(24)は「道の形態が勉強できたので、読谷でも見つけた場合は見逃さ

ないようにしたい」と語った。那覇市から参加した女性(46)は「こういう文化財に触れる機会は少ない。身近にあることを知れて良かった」と満足げに話した。

その他参加者からは「道は保存した方がいい」「今後も見られるようにすれば歴史の勉強になる」などの声が上がった。市は現在、歴史、文化の継承を目的に道の一部を保存する方向で検討しているという。

◀現地説明会

琉球新報(平成30年11月15日掲載)



◀現地説明会の様子

報告書抄録

ふりがな	にしふてんまじゅうたくちくへんかんあとちないまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう							
書籍	西普天間住宅地区返還跡地内埋蔵文化財発掘調査概報							
副書名	西普天間住宅地区（旧キャンプ瑞慶覧）返還跡地内における支障除去措置に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査の記録							
巻次	—							
シリーズ名	宜野湾市文化財保護資料							
シリーズ番号	第79集							
編著者名	仲村 毅、長濱健起、金城りお、伊野波快、儀保和士、普久原千曜、奥間陽子、佐喜眞千弥、崎濱比力理							
発行機関	宜野湾市教育委員会							
所在地	郵便番号901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号 TEL098-893-4430							
発行年月日	2020年（令和2年）3月							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あらぐすくういぬとらういせき 新城上殿遺跡	ぎのわんし 宜野湾市 あらぐすく 新城	472051	39	26° 17′ 32″	127° 45′ 53″	2016. 6. 6 } 2016. 12. 28	2, 215	支障除去（不発弾探査）に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査（記録保存調査）
あらぐすくふうどうばるだいいちいせき 新城大道原第一遺跡	ぎのわんし 宜野湾市 あらぐすく 新城		332	26° 17′ 29″	127° 45′ 59″	2016. 6. 6 } 2016. 12. 28	1, 380	
きゆうなやまがーばるだいはちいせき 喜友名山川原第八遺跡	ぎのわんし 宜野湾市 きゆうな 喜友名		335	26° 17′ 25″	127° 45′ 59″	2016. 6. 6 } 2016. 12. 28	2, 281	
あらぐすくふうどうばるだいにいせき 新城大道原第二遺跡	ぎのわんし 宜野湾市 あらぐすく 新城		333	26° 17′ 21″	127° 46′ 05″	2017. 1. 23 } 2017. 4. 3	1, 116	
あらぐすくふうどうばるだいにいせき 新城大道原第三遺跡	ぎのわんし 宜野湾市 あらぐすく 新城		334	26° 17′ 22″	127° 46′ 09″	2017. 1. 23 } 2017. 4. 3	1, 270	
きゆうなやまがーばるだいきゆういせき 喜友名山川原第九遺跡	ぎのわんし 宜野湾市 きゆうな 喜友名		336	26° 17′ 21″	127° 45′ 54″	2017. 4. 17 } 2017. 12. 28	1, 386	
きゆうなやまがーばるだいきゆういせき 喜友名山川原第十遺跡	ぎのわんし 宜野湾市 きゆうな 喜友名		337	26° 17′ 19″	127° 45′ 59″	2017. 4. 17 } 2017. 12. 28	432	
ふてんまいしちやーばるだいにいせき 普天間石川原第二遺跡	ぎのわんし 宜野湾市 ふてんま 普天間		338	26° 17′ 29″	127° 46′ 16″	2017. 6. 5 } 2017. 12. 28	17, 362	
ふてんまきゆうどうあと 普天間旧道跡	ぎのわんし 宜野湾市 ふてんま 普天間		339	26° 17′ 25″	127° 46′ 17″	2017. 6. 6 } 2017. 12. 28	4, 135	
あにやあがりばるこぼぐん 安仁屋東原古墓群	ぎのわんし 宜野湾市 あにや 安仁屋		340	26° 17′ 29″	127° 46′ 13″	2017. 5. 8 } 2017. 12. 28	1, 152	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
新城上殿遺跡	集落跡	グスク時代、近世～近代	ピット、堀切状遺構、炉跡など	土器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	特殊な遺構として堀切状遺構を検出。中国産輸入陶磁器が多数出土。			
新城大道原第一遺跡	集落跡	先史時代、グスク時代、近世～近代	ピット、土坑、溝状遺構等	土器、石器、青磁等の輸入陶磁器、沖縄産陶器等	先史土器や石器のほか、グスク時代相当の輸入陶磁器が出土。			
喜友名山川原第八遺跡	集落跡	グスク時代、近世～近代	ピット、炉跡、溝状遺構等	土器、石器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	グスク時代の集落遺跡。4本柱の掘立柱建物跡や多数の陶磁器が出土。			
新城大道原第二遺跡	集落跡	グスク時代、近世～近代	ピット、土坑、溝状遺構等	土器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	遺構は100基程度を確認。遺構は主に近世～近代相当。			
新城大道原第三遺跡	集落跡	近世～近代	ピット、土坑、溝状遺構等	土器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	近世～近代の遺構が主体。南東側でグスク時代相当のピットあり。			
喜友名山川原第九遺跡	集落跡	先史時代、グスク時代、近世～近代	堅穴遺構、炉跡、ピット等	土器、石器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	堅穴遺構6棟検出。石灰岩に囲まれた迫地形に立地。縄文後期～晩期相当。			
喜友名山川原第十遺跡	古墓	近代	古墓	土器、石器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	天井部が削平された古墓。墓室内のタナや庭囲いの石積みが出土。			
普天間石川原第二遺跡	集落跡、生産遺跡	先史時代、グスク時代、近世～近代	ピット、溝状遺構、土坑、井戸、堅穴建物跡等	土器、石器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	近世～近代の屋敷跡に関連する遺構が主体。先史時代の遺構では、堅穴建物跡や大型土坑（落とし穴）を検出。			
普天間旧道跡	交通遺跡	先史時代、近世～近代	石列、溝、枕木痕、ピット、土坑等	土器、石器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	石灰岩の切石を並べて縁石とし、舗装にはイングレーを利用して形成。			
安仁屋東原古墓群	古墓群	近世～近代	古墓	土器、石器、青磁、白磁、染付、沖縄産陶器等	近世～近代相当の古墓3基。石灰岩を掘り込み、墓口と墓底を石積みで形成。			
要約	本報告は、平成27年3月31日にキャンプ瑞慶覧から返還された西普天間住宅地区において、返還後の支障除去措置に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査の成果を概報としてまとめたものである。発掘調査は宜野湾市教育委員会が主体となり、平成28年度から平成29年度にかけて実施した。調査対象となった遺跡は10遺跡に上り、縄文後期～晩期の集落跡やグスク時代相当の集落跡、近世～近代相当の古墓群や近代の道跡など多様な遺構、遺物が確認されている。							

宜野湾市文化財保護資料 第79集

西普天間住宅地区返還跡地内埋蔵文化財発掘調査概報

平成28・29年度

西普天間住宅地区(旧キャンプ瑞慶覧)

返還跡地内における支障除去措置に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査の記録

発行年 2020年(令和2年) 3月
編集発行 沖縄県宜野湾市教育委員会
住所 〒901-2203
沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号
TEL 098-893-4430
印刷 株式会社 東洋企画印刷
TEL 098-995-4444